受賞者≪阪急電鉄株式会社≫

＜鉄道地下空間における照明・電照看板の大規模ＬＥＤ化及び照明の調光制御装置導入＞

平成２３年度より、阪急京都線・西院～河原町間の地下空間における照明・電照看板（計４，２６１箇所）のＬＥＤ化や、駅構内（烏丸・河原町）を中心に照明の調光制御装置の導入を行っている。

一般家庭約２４０戸分の年間電力使用量を削減し、年間約３６３ｔ（削減率２２％）の CO_2 削減を図っている。

1. 背景

阪急電鉄は、都市交通事業者としてより良い地球環境を次世代につなぐことを環境ビジョンとして設定しており、沿線自治体で掲げられている環境に対する方針も鑑みながら、公共交通の利用促進や省エネルギー設備の導入等を通じ、環境負荷の低減に努めております。

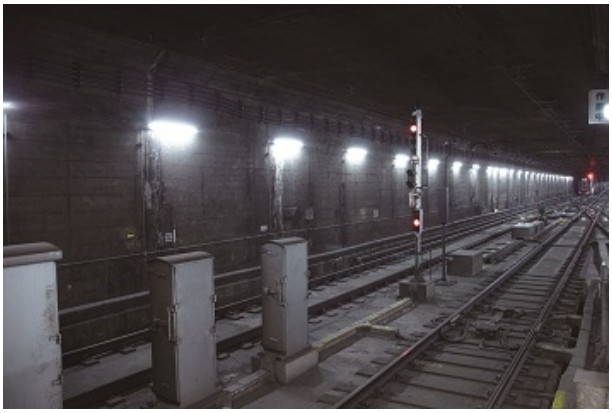
例えば、平成 22 年に開業した摂津市駅は、駅周辺のまちづくりのコンセプトとあわせる形で、CO_2 排出量ゼロの駅「カーボン・ニュートラル・ステーション」を実現しております。平成 25 年に開業した西山天王山駅は、高速道路との交差部に位置しており、鉄道と高速バス・マイカーとの乗継を容易にすることにより、沿線内外を問わず、多くの方々の公共交通の利便性を向上させることに貢献しております。

2. 取組みの内容

今回の取組みは、「京都議定書」の発祥地である京都市内で実施したものであり、照明類が常時点灯している地下空間に着目し、省エネルギー設備を多数導入することにより、大幅なエネルギー消費の削減を果たしました。

具体的には、当社京都線の地下線区間に当たる西院駅～河原町駅間において、計 4,261 箇所の照明・電照看板の LED 化に加え、照明の照度を自動調節できる調光制御装置を導入いたしました。調光制御につきましては、①タイムスケジュールによる制御、②外光検知による制御、③床面照度に応じた制御、④人の混雑度に応じた制御の 4 種類の制御を実施しております。

これらの実施に当たっては、環境省の「低炭素地域づくり集中支援モデル事業」に応募し、同省から委託を受け、実現いたしました。



照明のLED化にあわせて、京都のまちにふさわしい空間をご提供できるよう、河原町駅の中央改札口のリニューアルや「阪急京都　観光案内所」の開設、烏丸駅～河原町駅間の地下自由通路の美装化を実施しております。リニューアルした改札口や「阪急京都　観光案内所」でもLED照明を採用しており、同案内所では、英語・中国語・韓国語での対応が可能なスタッフを配置し、観光案内や企画乗車券の販売を行っております。

また京都へお越しになられるお客様に旅を楽しんでいただくため、梅田－河原町間に観光列車「京とれいん」を運行しており、京都の町屋をイメージした内装、4か国語による案内・観光ガイド放送を実施しております。

3. 取組みの成果

これらの取組みの結果、西院～河原町駅間の地下空間の年間電力使用量が約124万kWh削減され、約363tのCO_2排出量の削減に繋がっております。

今後も省エネルギー設備の導入、公共交通の利用促進を継続して実施していくことにより、環境負荷の低減に努めてまいります。

阪急電鉄株式会社
Hankyu Corporation

阪急電鉄株式会社
代表取締役社長
中川　喜博

〒530-8389
大阪市北区芝田一丁目16番1号
電話　（代表）06-6373-5085
URL　http://www.hankyu.co.jp/

環境活動の理念

阪急電鉄は、「地球環境の保全は人類共通のテーマであり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命である」との認識にたち、企業活動を通じて地球環境の保全に努め持続的発展が可能な社会づくりに貢献します。